



中貝 宗治
豊岡市長

地方創生戦略の構造

地方創生というのは、人口減少対策である。

予測されている人口減少はあまりに激しく、しかも、若年階層が極端に痩せ細った、いびつな人口構造への移行が同時に進行する厳しい現実には、国も自治体も、遅まきながら真正面から取り組むべきである。各地方における成果の総和で、国全体の人口減少の緩和を遂げる、というシナリオが「地方創生」。

まず目標値を定めて減少トレンドを和らげ、その上でなお元気なまちを作る、という2階建の作戦構造になっている。

なぜ豊岡の人口が減るのか？ — 若者回復率の低さ

例えば豊岡で、なぜ人口が減るのか？その理由は単純。10代の転出超過にある。

とりわけ高校卒業時には約8割の若者が豊岡を離れ、圧倒的な転出超過が生じている。逆に、20代では大学卒業時を中心に転入超過になっている。

多くの地方都市で同様の構造が見られるはず。

なぜ若者は帰ってこないのか — 地方は貧しくてつまらない？

社会的、経済的、文化的に豊かな都市と貧しい地方。

その非常に強いイメージが若い人たちとその親、祖父母たちを閉じ込めている。豊岡(地方)は、貧しくて、つまらない。豊岡(地方)に帰るのは、何となく「都落ち」のような気がする。そこで否定されているのは、単に豊岡(地方)における所得の低さでなく、豊岡(地方)で暮らすことの価値そのもの。

地方創生—地方で暮らすことの価値の創造

やるべきことは、豊岡(地方)で暮らすことの価値の創造。もともと地方にはそれがある。再発見と再創造と書いていい。

豊岡市の戦略の旗印 — 「小さな世界都市」を創る

戦略は、豊岡における人口減少の要因に即して、社会減対策としての若者回復率向上のための戦略と、自然減対策としての結婚促進と多子化のための戦略の2つから成り立つ。

特に社会減対策に関する戦略の旗印として掲げたのが、「小さな世界都市 — Local & Global City」 — 人口規模は小さくても世界の人々から尊敬され、尊重されるまち — の実現。

大都市は偉くて小さな町は偉くない、大企業は偉くて中小零細企業は偉くない、という価値観は、壊すことは非常に困難。そこで、日本を飛び越えて世界で輝くこと、世界の人々から評価されることを通じて、私たちの心の中にあるその価値の序列を壊していこうという作戦。

「小さな世界都市」 — ローカル&グローバルの可能性

チャンスは、グローバル化の進展の中にある。グローバル化の進展によって、世界は急速に同じ顔になりつつあり、ローカルであること、地域固有であることが世界の中で輝くチャンスにつながる。

世界に通用するローカルを磨かなければ輝くことはできない。

「小さな世界都市」実現の柱

1 受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐ

顔が同じなら、体が大きい方が勝つ。

受け継いできたものを守り、自分たちの工夫を付け加え、次へと引き渡していく。蓄積をするまちづくりを進める。その道に行く他はない。

例1 出石城下町

例2 出石永楽館

例3 城崎温泉

インバウンドによる仕事の創出

インバウンド政策は、仕事創出のための政策でもある。

豊岡観光(TTI)イノベーションの挑戦

豊岡観光イノベーションで観光のイノベーション、観光によるまちのイノベーションを起こす。

2 芸術文化を創造し、発信する

芸術文化は「小さな世界都市」を実現するための第2の柱。

城崎国際アートセンター

アーティストは、最高3カ月間、無償で宿泊施設、稽古場、ホールを利用することができ、1日24時間、創作活動に没頭することができる。芸術監督には、日本を代表する劇作家、平田オリザさんが就任。

オープン1年目から活況を呈し、世界中からアーティストが続々とやってくる。豊岡は、東京を介さずに直接に世界と結ばれるようになりつつある。

3 環境都市「豊岡エコバレー」を実現する

- ・ コウノトリの絶滅と復活
- ・ なぜ野生復帰か？
- ・ 拠点施設の整備
- ・ 湿地再生
- ・ 自然放鳥
- ・ ラムサール条約の登録
- ・ 環境経済戦略
- ・ コウノトリ育む農法

農業は決定的に重要。コウノトリの最後にとどめを刺したのは、農薬。農家、JA、兵庫県の農業改良普及センター、市が一体となって、農薬に頼らない「コウノトリ育む農法」を確立し、普及を図ってきた。

コウノトリを育むお米は消費者の高い評価を受け、高い付加価値を生み出すようになっている。

4 「小さな世界都市」市民を育てる

- ・ ふるさと教育
- ・ 英語の修得
- ・ 演劇によるコミュニケーション能力の修得
- ・ ここでいいのだ

今後豊岡にはさらに多くの海外の方々がやってくる。その方々に対し、豊岡の子どもたちは、自分たちのまちのことを誇りをもって、英語というツールを使って、表現力豊かにコミュニケーションをとる、といったことができるようになるはずである。



(詳しくは本文をご覧ください <https://goo.gl/O0uyAx>)

執筆者紹介:中 貝 宗 治 (なかがい むねはる)



【生年月日】

昭和 29(1954)年 11 月 4 日、兵庫県豊岡市生まれ。

【住 所】

兵庫県豊岡市下宮(しものみや)499 番地の 1

【学 歴】

豊岡市立三江小学校・市立豊岡南中学校・兵庫県立豊岡高校を卒業

京都大学法学部卒業(昭和 53(1978)年3月)

大阪大学大学院経済学研究科経営学専攻前期課程修了(昭和 62(1987)年3月)

【職 歴】

昭和 53(1978)年 4月	兵庫県庁 入庁
昭和 60(1985)年 4月	大阪大学大学院経済学研究科 派遣
平成 2(1990)年 12月	兵庫県庁 退職
平成 3(1991)年 4月	兵庫県議会議員 当選
平成 7(1995)年 6月	兵庫県議会議員(2期目) 文教常任委員長 就任
平成 11(1999)年 4月	兵庫県議会議員(3期目)
平成 11(1999)年 6月	総務常任委員長 就任
平成 12(2000)年 4月	自民党県会議員団政務調査会長 就任
平成 13(2001)年 6月	兵庫県議会議員 辞職
平成 13(2001)年 7月	豊岡市長 就任
平成 17(2005)年 3月	合併による新市設置のため豊岡市長 退任
平成 17(2005)年 5月	新「豊岡市」市長 就任
平成 21(2009)年 5月	豊岡市長(2期目)
平成 25(2013)年 5月	豊岡市長(3期目)

【主な公職】 豊岡市長

北但行政事務組合管理者

但馬広域行政事務組合管理者

一般社団法人豊岡観光イノベーション理事長

【著 書】 「鶴(こうのと)飛ぶ夢」(平成 12(2000)年7月)

【好きな言葉】 “夢はでっかく 根は深く”

“願うこと 願い続けること 投げ出さないこと”

このニュースレターは、未来を拓く提言を当代トップレベルの知見により、発信します。

ご意見、賛同、助言、ご提言を当財団までお寄せください。

一般財団法人「未来を創る財団」事務局 パブリック・コミュニケーション担当

abrighterfuture@theoutlook-foundation.org

<http://www.theoutlook-foundation.org/>

© 2017 The Outlook Foundation, All rights reserved.